

◆ 平成 23 年度（前期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 国際文化学科	学科長：丸山浩明，学科教務委員	平成 23 年 5 月 10 日（火） ～7 月 19 日（火）	1828 室	<p>テーマ：カリキュラムの見直しについて</p> <p>参加者数：各回 6 名 6 回 計 36</p> <p>簡単な状況報告： 昨年度に実施した教員へのアンケート結果と各ポリシー等とを鑑み、25 年度からの次期中期計画をも視野に入れて、25 年度からの新カリキュラムへ移行するための見直しを進めた。特に「科目配当・カリキュラム」においては履修指導による単位の統一的な積み上げと分野領域を立体的に学習させる必要性が再確認された。後期には学科全体としての話し合いを進め、学生の意識や意見の聴取も織り込みながら、具体的なカリキュラム改革を実施してゆく。</p>
人間文化学部 健康科学科	菅原芳明；学科 FD 委員 中瀬古哲；学科長 栢下淳	平成 23 年 4 月 1 日 ～同 4 月 30 日 ・アンケート応募期間：平成 23 年 4 月 1 日～同 4 月 30 日（現場の“生”の声の集約） ・「健康科学科 Sustainable Development に向けた Road Map」の作成	特に定めない	<p>テーマ：「広島プレミア科目」参加に想を得た学 FD：『「現場の“生”の声の集約に基づく、「健康科学科 Sustainable Development に向けた Road Map」の作成』』</p> <p>簡単な状況報告： この3月に開催された「広島プレミア科目」参加に想を得た学科 FD である。講師の方々のご講演の中で特に印象深かったものは、1)『それぞれの企業は、「現場の“生”の声」を大切にしている！！』ということ、さらには、2)『「現場の“生”の声」の集約を通して、「それぞれの企業の Sustainable Development に繋げている！！』との 2 点であった。なお、「現場の“生”の声」の集約の代表例として、「HONDA Way（ワイガヤ!!）」や「TOYOTA Way（KAIZEN!!）」についての言及があった。</p> <p>今回、平成 23 年度第 1 回学科 FD として、この手法（「ワイガヤ!!」；「KAIZEN!!」）を取り上げると共に、昨年度に策定した「将来構想案（将来構想の策提案－学科の設置理念と将来構想－）をバックグラウンドとし、併せて、今回集約した「現場の“生”の声」に基づきながら「健康科学科 Sustainable Development に向けた Road Map」の作成を試みたものである。</p>
経営情報学部 経営学科	粟島 浩二	平成 23 年 5 月 9 日月曜日 3 時限および平成 23 年 5 月 30 日月曜日 3 時限	1361 講義室 (PC 実習室)	<p>テーマ：1 年生フレッシュマンセミナーにおける情報データベースの活用に関する共通講座の開講</p> <p>参加者数：経営学科 1 年生全員 66 名（2 回に分かれて参加した）</p> <p>簡単な状況報告 経営学科のすべてのフレッシュマンセミナー受講生を対象に、情報処理演習室において、実習形式で情報データベースの利用方法を学んだ。講師およびアシスタントとして学術情報センタースタッフ（大野氏）の協力を得る。経営学科教員数名による社会科学や経営学で一般的によく使う情報の検索方法などを学んだ。</p>

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
経営情報学部 経営学科	平野 実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年 6 月 5 日（第 4 回「日経テスト」受験日）</li> <li>・平成 23 年 10 月 23 日（第 5 回「日経テスト」受験日）</li> </ul> <p>その他に下記のように説明会，集中勉強会を実施した。</p> <p>また，学生は，継続的に自宅学習等で，「日経テスト」受験に備えて，経営・経済知力向上に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年 5 月 6 日 日経テストに関する説明会を開催</li> <li>・平成 23 年 8 月 19 日 夏期集中日経テスト勉強会</li> <li>・平成 23 年 8 月 26 日 夏期集中日経テスト勉強会</li> <li>・平成 23 年 9 月 9 日 夏期集中日経テスト勉強会</li> <li>・平成 23 年 9 月 16 日 夏期集中日経テスト勉強会</li> </ul>	<p>研究室，演習室，学生の自宅学習等を基本とした。</p> <p>また，日経テストの実施場所は，広島工業大学（第 4 回），広島修道大学（第 5 回）であった。</p>	<p>テーマ：「日経テスト」を活用した経営・経済知力向上への取り組み</p> <p>参加者数：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 4 回「日経テスト」受験者 経営学科 栗島ゼミ 6 名（3 年生）</li> <li>・第 5 回「日経テスト」受験者 経営学科 栗島ゼミ 6 名（3 年生） 西脇ゼミ 6 名（3 年生） 平野ゼミ 9 名（3 年生 6 名・4 年生 3 名）</li> </ul> <p>簡単な状況報告：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※第 4 回 実績：団体賞ゼミ部門 栗島ゼミ第 5 位（27 チーム中）</li> <li>※第 5 回 実績：団体賞ゼミ部門 平野ゼミ第 13 位（80 チーム中） 栗島ゼミ第 19 位（同 上） 西脇ゼミ第 20 位（同 上）</li> </ul>
経営情報学部	西脇 廣治	<p>旧経営学科第 1 回オリエンテーション（平成 23 年 4 月 5 日）</p> <p>旧経営学科第 1 回過年度生指導対策検討会議（平成 23 年 4 月 13 日）</p> <p>旧経営学科第 2 回過年度生指導対策検討会議（平成 23 年 6 月 8 日）</p>	<p>1212 会議室，1512 経営情報学部学部長室，その他研究室，学外など種々の場所で</p>	<p>テーマ：広島県立大学（経営学科）過年度学生への対策</p> <p>参加者数：</p> <p>旧庄原 C 所属の広島県立大学経営学科の全メンバーが中核だが，経営情報学部全員の協力体制で進めている。</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>定期的に過年度生指導対策検討会議を開催し，学生の状況を確認した上で，主指導教員と副指導教員による継続的な個別指導に加え，必要に応じて学科全体のオリエンテーションを実施した。各活動の詳細は以下の通り。</p> <p>(1) 履修ガイダンスの実施，卒業までの履修年度計画作成</p>

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
		<p>旧経営学科第3回過年度生指導対策検討会議（平成23年9月14日）</p> <p>（但し、ここに記載したのは全体の会合のみ。記載していない個別の活動は多数ある。）</p>		<p>(2) 各学生の出席状況確認（各指導教員より報告）、今後の対応策・指導方針の検討</p> <p>(3) 各学生の出席状況調査の結果確認、出席状況不良者については保護者と電話・メールで協議</p> <p>(4) 各学生の現状および卒業・学業に対する意欲の確認、個別履修指導</p> <p>(5) 各学生の前期単位取得状況の確認、今後の対応策・指導方針の検討</p> <p>(6) 保護者への成績通知書と現状報告の文書の送付</p>
保健福祉学部	今泉 敏	<p>平成23年9月10日</p> <p>14時5分～15時30分、引き続き討論会 16時～18時</p>	三原キャンパス 4101号室	<p>テーマ：保健福祉系人材養成のあり方に関する検討「変革期における看護系大学の教育—大学院教育の強化が地域社会への貢献に直結する—」</p> <p>参加者数：65名</p> <p>簡単な状況報告： 村嶋幸代教授（東京大学大学院医学系研究科地域看護学教授、全国保健師教育機関協議会会長）に保健師、助産師、看護師育成に関わる諸問題、今後の展開に関して90分の基調講演をしていただいた。その後、本学教員及び広島県内の教員と教授方法に関して討論を行った。</p>
保健福祉学部 看護学科	山中 道代	<p>①伝達講習 平成23年8月23日（火） 13:00～14:30</p> <p>②FD学習会 第一回：平成23年9月7日（水）13:00～14:30（担当者：大内助教、渡辺助教） 第二回：平成23年9月14日（水）13:00～14:30（担当者：黒田講師、山中准教授）</p>	<p>①三原キャンパス 2416 会議室</p> <p>②各回とも三原キャンパス 2416 会議室</p>	<p>テーマ：教員のファシリテーション能力強化のための取り組み</p> <p>参加者数：①伝達講習 14名 ②第一回：13名、第二回：7名</p> <p>簡単な状況報告： ①医学教育セミナーとワークショップに出席した教員による伝達講習を行った。セミナーで配付された資料を用いて内容の共有を図った。（担当：黒田講師） ②FD担当者による、ファシリテーションに関する書籍の抄読会を行った。抄読会の後、参加者によるディスカッションにより、内容を深めたり、疑問点を出し合ったりした。（使用図書：ファシリテーション入門、ファシリテーション、教育研修ファシリテーター）</p> <p>上記内容は、今後に予定している研修会に向けて、FD担当者の基礎知識習得のために計画したものを看護学科教員に公開して実施したものである。</p>

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 看護学科 教育課程検討会	松森 直美	平成 23 年 8 月 8 日 (月) 16 : 20 ~ 17 : 50 平成 23 年 9 月 2 日 (金) 14 : 00 ~ 15 : 30	3423 会議室	<p>テーマ：看護学科教育課程の評価と今後の展望に関する検討</p> <p>参加者数：9 名</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>計画と検討スケジュールの確認を行い、在校生、卒業生、就職先・実習施設に送付する各質問紙を作成するため質問内容を考えていく。10 月～11 月で質問紙を作成し、12 月中に調査を実施することを目標として検討を進めていく予定である。卒業生の送付先は、同窓会や教学課から情報を得ることが困難であるため、看護学科内で独自に把握していく方法を今後検討することが必要である。</p>
保健福祉学部 理学療法学科	大塚 彰	学科会議時の討議・検討は 毎週水曜日・4 時限目 勉強会としては月 1 回第 2 水曜日・4 時限目	2416 会議室	<p>テーマ：臨床実習中の学生の学習支援および学内での学習の進行に問題を抱える学生の支援／教育方法論に関する勉強会)</p> <p>参加者数：理学療法学科教員全員 (16 名)。勉強会の場合は、内容を学部教員にメールで広報し、他学科よりの参加者を認めている。</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>①学外における臨床実習中の学生の学習支援については、前期ですでに 3 回以上欠席している学生について、学科内教員よりの報告→チューターによる状況把握→学科での対応を検討・実施した。</p> <p>②学外における臨床実習中の学生の学習支援については、4 年生の「総合臨床実習 I・II」において、問題のあったケース述べ 3 件について検討し、教員による早期かつ複数の実習地訪問指導を実施した。</p> <p>③教育 (FD) に関わる勉強会としては以下の内容で 2 回開催した。</p> <p>1) 平成 23 年 7 月 20 日：新カリキュラム申請に向けて一原稿カリキュラムと新カリキュラムの修正点について一 (金井教授, 参加 16 名)</p> <p>2) 平成 23 年 9 月 28 日：大学における教育実践? (塩川准教授, 参加 16 名)</p>
保健福祉学部 作業療法学科	土田 玲子	平成 23 年 9 月 24 日 (土) 10 : 00 ~ 17 : 30 平成 23 年 9 月 25 日 (日) 9 : 00 ~ 15 : 00	1101	<p>テーマ：作業科学</p> <p>参加者数：作業療法学科教員 9 名</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>本学で開催された第 5 回作業科学セミナー (全国から約 180 名参加) に参加し、作業療法の基礎学問としての作業科学についての理解を深めた。特別講師として来日したオーストラリア、マッコーリー大学のゲイル・ホワイトフォード教授と、人権に関する意識啓発の必要性、世界作業療法士協会による人権に関する声明書 (2006 年) に記載されている作業権について、作業療法教育でどのように扱うかについてディスカッションした。</p>

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	城本 修			テーマ：1. 学生支援の充実 2. 専門職教育の効果的な方法についての検討 3. 専門・関連分野に関する知識の充実
		①学生支援会議および毎月の学科会議	1319・1310 演習室	参加者数： コミュニケーション障害学科教員 13～17名。 簡単な状況報告： 学生支援にかかわる情報の共有をはかった。個別の事例への対応のほか、実習時の対応、国家試験への対策などが中心となった。
		②ST養成校研修会への教員の参加（長谷川講師）全国研修会（大阪市） 平成23年8月10日（日） 13：00～	新大阪丸ビル	参加者数： 研修会への参加は本学科教員2名が参加。 簡単な状況報告： ST養成校研修会 全国研修会では県立岡山大学渡辺富夫先生による「学生を惹きつける講義を提供するには一身体的コミュニケーション技術についてー」という講演を受けて、講義の充実を図るための工夫などが話し合われた。
		③ i) 学科セミナーの開催 1. 平成23年5月20日(金) 12：15～12：55 2. 平成23年6月17日(金)12：15～12：55 3. 平成23年7月21日(木)12：10～ 4. 平成23年9月21日(水)12：10～ ii) 講演 本多清志先生 平成23年6月8日(水)13：00～	i) 1309 演習室  ii) 4209 教室	参加者数：本学科教員 7～10名。 i) 1. テーマ：失語症者における理解障害・意味障害について（津田 哲也） 2. テーマ：「文字による失語症者のコミュニケーション補助」（長谷川 純先生） 3. テーマ：発達障害を併せ持つことが疑われる聴覚障害児（山崎 和子先生） 4. テーマ：ラットとヒトの等価な課題における選択反応時間課題遂行（古屋 泉先生） ii) 講演 本多 清志先生（CNRS—University of Paris III, Paris, France） “MRI による発生発話器官の形と動きの可視化” 簡単な状況報告： それぞれの教員の専門領域での研究の紹介があり、いずれも、参加教員の学びの機会ともなった。
		④実習指導者会議 5/16(月)4年生の実習指導者 7/25(月)3年生の実習指導者	4102 地域連携センター	参加者数： 5/16 学外実習施設指導者 18名 本学科教員 13名 7/25 学外実習施設指導者 16名 本学科教員 13名 簡単な状況報告： 臨床教育に関する本学科での取組みを紹介するとともに、実習生をとおしてみた本学の教育について、学外実習施設の指導者から意見をいただき、今後の実習のあり方について検討した。

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 人間福祉学科	三原 博光	①平成 23 年 5 月 21 日 (土)	体育館 調理実習室	<p>テーマ：地域の障害者との交流を通して学生及び教員の福祉実践能力の構築</p> <p>参加者数：障害者家族 120 名 人間福祉学科 80 名（1 年生～3 年生）</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>3 年生が企画・運営を実施し、人間福祉学科 1, 2, 3 年生 80 名がボランティアとして参加し、一方、障害者家族・施設職員 120 名が参加し、体育館でビーチバレーボール、調理実習室でカレーの調理を行った。看護学科の学生・教員も参加し、学科を超えた学生及び教員同士の交流も芽生えた。</p>
		②毎月 1 回 (実習担当会議)	4 号館 1 階	<p>テーマ：実習に関連する授業欠席の多い学生指導（3 年生）</p> <p>参加者数：実習担当教員（7 名）</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>3 年生の学生の中に実習に関連授業の欠席の多い学生の事前学習の指導方法について話し合った。そして、実習担当指導員の根気強い指導により、当該学生が事前実習学習と夏休みの福祉実習を終えることができた。</p>
		③毎月 1 回 (学科会議)	4 号館 1 階	<p>テーマ：授業欠席の多い学生の指導</p> <p>参加者数：学科教員（20 名）</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>1 年生のなかで、授業の欠席が多く、かつ授業に出席したとしても態度に問題のある学生の教育的指導について話し合い、チューター中心に指導を行なっていくことにした。</p>